

国際部報告

Report on WFAS International TCM Convention
(Global Tour on Acupuncture Styles – Malaysia) 参加報告

齊藤 宗則

(社) 全日本鍼灸学会 国際部
明治国際医療大学 伝統鍼灸学教室

要 旨

2012年4月30日～5月2日、マレーシア・クチンのPullman Hotelにて、「WFAS International TCM Convention」が開催された。大会テーマは「鍼灸、オステオパシー、癌、伝統的中医学、中医学教育」である。鍼灸関連では中国鍼灸の現状について第十一次五ヵ年計画期間中に行われた研究の総括や、「中医針灸」の無形文化遺産登録に関する内容などが報告された。また、マレーシアの伝統医学の臨床・研究・法制化などの現状についても紹介された。参加者は400名あまりであった。

キーワード：世界鍼灸学会連合会、WFAS、中医学、TCM

I. はじめに

2012年4月30日（月）から5月2日（水）にかけて、マレーシアのクチンにあるPullman Hotelにて、中国国家中医薬管理局の主管、マレーシア国際伝統医研究院の主催で行われた「WFAS International TCM Convention」に参加したので報告する。

クチンはマレーシアの首都クアラルンプールの東方のボルネオ島にあり、クアラルンプールから約2時間の距離にある。「クチン (Kuching)」とは猫の意味で、街には猫のオブジェが点在しており、置物などもたくさん売られている。車で1時間ほどの所に国立公園が複数あり、オランウータンや世界最大の花であるラフレシアが見られるなど、自然が非常に豊かである。

本会議は世界鍼灸学会連合会（以下WFAS）が

鍼灸普及のために各国で開催しているものである。しかし、WFASが主催であるにもかかわらず会議の名称に「TCM」とされていることから、中国によるWFASの私物化、TCM戦略の一環とされていることがわかる。

大会実行委員長Liao ChunHua（廖春華）氏のご子息によれば、主催のマレーシア国際伝統医研究院はクアラルンプールにあるManagement & Science University（マレーシア管理科学技術大学）の一部門であり、中医師中心で、中医師と西洋医の割合は5：1ほどである。政府の求めに応じて中医師らを各医院に派遣しているという。

また、大会実行委員長は、本会議の目的として「中医鍼灸」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを祝い、中医界における中医鍼灸の地位を確認し、中医界をさらに守り、中医鍼灸を永遠



会場：Pullman Hotel

に中医界に存在させることを挙げていた。大会テーマは「鍼灸、オステオパシー、癌、伝統的中医、中医学教育 (Acupuncture and moxibustion, osteopathy, cancer, traditional chinese medicine, and Chinese medical education)」で、論文は60篇あまりを採用し、スピーカーとして35名を選んだ。

運営面では、参加手続きは人が少なかったせいもあり、時間は多少かかったものの比較的スムーズに行うことができた。プログラム上では3題発表後に開会式を行うというとても斬新なスケジュールで、WFASでは写真撮影による開会式の遅延が常態化していることを考えると、工夫されているといえる。開会式は結局15分遅れですみ、開催地PRのビデオから始まった。開会式全体がとても派手な演出で、大会長と実行委員長が音楽に合わせて登場し、全員起立させて迎えるなど行き過ぎの感もあった。開会式終了後の休憩では、軽食としてナシゴレンや春巻き、パンケーキ、コーヒーと紅茶が用意されるなど、参加費にホテル代が含まれていない分、充実している印象を受けた。

II. 演題

発表のうち、鍼灸関連で注目したものをいくつか紹介する。

1. 中国鍼灸の現状と発展

Liu BaoYan (劉保延) は、中国鍼灸を普及・発展させるために十一五 (第十一次五カ年計画) 期間中に行った鍼灸関係の研究を総括して紹介した。

鍼灸の臨床研究については以下の通りである。鍼灸治療単独で16系統532疾患の予防・治療に用いられている。そのうち、有効は81疾患、やや有効は216疾患であり、235疾患についてはさらなる研究が必要である。中国の北東部における外来患者の上位5疾患は末梢性顔面神経麻痺、頸椎症、腰椎椎間板ヘルニア、脳血管障害、睡眠障害である。また、鍼灸適応病症研究として現代文献データベースを作成し、『鍼灸臨床証拠 (evidence)』『現代鍼灸病譜 (disease menu)』『中華鍼灸臨床診療規範 (standard)』を出版した。

機能的便秘に対しては、天枢穴への深刺がとても効果的である (著者注：排便回数について、深刺群は西洋薬群より明確に効果があったとのことだが、浅刺も深刺と同様に効果があったように見えたことが目を引いた)。腸運動については、深刺群が浅刺群や西洋薬群より有意に効果的であった。

棒灸を二本重ねて熱刺激を与える「熱敏灸 (Thermo moxibustion)」の喘息 (慢性持続性) に対する Disease Control Rate は79.2%であった。

末梢性顔面神経麻痺は早期治療の効果が最も高く、急性期と静止期は同様に回復期よりも優れている。損傷部位別では、鼓索以下が鼓索以上に比べて治療効果が高い。

Common diseases (脳卒中、顔面神経麻痺、便秘、頸椎症、喘息、月経困難症、片頭痛、うつ病、帯状疱疹) に対して、RCTによる研究を行った。すべてにおいて positive という結果を得た。

鍼灸の標準化については以下の通りである。鍼灸技術操作規範のうち、灸灸、頭針、耳針、三稜針、拔罐 (吸い玉)、穴位注射、皮膚針、皮内針、穴位貼付、埋没針、電気針、火針、眼針、鼻針、口唇針、腕踝針、毫針基本刺法が、2008年4月23日と2009年2月6日に公布された。芒針、腹針、毫針刺針手技、刮痧 (かっさ)、腧穴主治については、審査中である。

臨床診療ガイドラインの編纂について、最初に編纂のためのガイドラインを作成した。帯状疱疹、ベル麻痺、うつ病、脳卒中後の仮性球麻痺、片頭痛についてはすでに出版されている。月経困難症、慢性腰痛、便秘、坐骨神経痛、頸椎症、急性および

び慢性胃炎、膝関節炎、喘息、肩関節周囲炎、不眠症、糖尿病性末梢神経障害、顔面痛、突発性難聴、アレルギー性鼻炎、肥満については、現在編纂中である。

2. 「中医鍼灸」の人類無形文化遺産への登録について考える

シンガポール中華医学会の Wang BaoFang (王葆方) 氏は以下のように報告した。

中国が申請した「中医鍼灸」が、2010年11月16日に無形文化遺産政府間委員会第5回会議において登録が認められた。中医は科学の一分野であり、はっきりとした文化的特徴がある。このため、中医鍼灸を発展させるためには、その文化的特徴を守る必要がある。

「中医鍼灸」項目は「自然界と宇宙に関する知識と実践領域」に属し、主に「地域社会が自然環境とのやりとりによって形成された知識・ノウハウ・技能の実践・技能の表現」。申請項目には200字以内の定義が必要で、豊富な中医鍼灸を全く知識のない、あるいは直接接したことのない読者にもはっきりと解説しなければならない。

「中医鍼灸は、中国人が天人合一の統一体観を基礎とし、経絡腧穴理論を指針として鍼具と艾葉等の主な道具や材料を用い、身体の特定位点への刺入あるいは焼灼を通じて人体の平衡状態を調節し、保健や治療という目的を達する伝統知識と実践である。中華民族の智慧と想像力という独特な文化表現が凝縮されており、中医鍼灸の安定した実践頻度および代々続く整った知識体系は、関連する群体生命の健康の保障のために重要な作用を発揮し、有人文化が認める重要な符号となっている。」この200字(中文では181字)の定義が、中医鍼灸の登録が認められた根拠となっている。

中医鍼灸は複合概念であり、中医によって鍼灸というものを定める。鍼灸の中から中医の成分や中医の特色を除いてはならない。他の学科がどのように鍼灸を使用し、研究するかは百家争鳴すべきであるが、主体である中医は外してはならない。

伝統文化の観点から中医を研究すると、科学と文化の最良の一致点を見つることができる。たとえば、九六の補瀉がある。これは、補法は九回



会場前方の横断幕

行い、瀉法は六回行うというものであり、多くの鍼灸書籍には刺激量を定めたものという解説があるが、これは一面的である。中国文化の源から探していくと、「九六」はもともと『易経』の概念である。天地の現象は一から九の数字で表すことができ、奇数を陽とし、その代表を九とし、偶数を陰とし、その代表を六とする考えである。

3. いかに鍼治療の医療訴訟を防ぐか

Jack Teoh (張文開) 氏は、医療訴訟を引き起こしやすい12項目として、治療に関する説明(鍼灸、鍼の本数、ひびき、治療回数など)不足、治療の準備が整っていない、異性の患者と二人っきりになる、問診が不十分、患者の準備が不十分(トイレ、携帯電話の電源を切る、更衣が済んでいないなど)、刺鍼における解剖知識の不足・幻肢痛への対応不足、通風設備などの治療環境の未整備、置鍼時における体動、抜鍼技術の不注意・未熟、ヒステリー発作への対応と処置が不適切、料金体系が不明瞭、治療後のフォローが不十分、などを挙げた。

4. 鍼灸による中年期健康体重の維持

インドネシアのJuliana Tjandra (曾縉雲) 氏は、50歳以上の中年期の肥満に対する鍼灸治療を報告した。要因としては、経済的な余裕や食事量の増加、活動量の減少、服薬、精神、ホルモンバランスの失調、遺伝などがある。証としては脾虚湿阻、脾腎陽虚、肝鬱気滞、陰虚内熱、胃湿熱がよ

く見られる。

脾虚湿阻：精神疲労、乏力、胸悶、腹脹、食欲不振、淡舌胖大、白膩苔、濡滑脈など。治則は健脾利湿益氣、脾腎陽虚：腰背がだる痛い、めまい、四肢冷感、下肢浮腫、胖舌、沈緩脈など。治則は健脾益氣、補腎陽。肝鬱氣滯：胸肋脹痛、胃脘、不眠、多夢、暗紅舌、白苔、弦細脈など。治則は疏肝理氣、行氣化滯。陰虚内熱：頭痛、めまい、目痛、耳鳴、高血圧、四肢しびれ、舌尖紅、薄苔、弦細脈など。治則は祛痰滋陰祛熱。胃湿熱：多食、すぐ腹が減る、口乾、飲みたがる、便秘、紅舌、黄苔、滑数脈。治則は通腑清熱祛湿。

選穴は曲池、上巨虚、豊隆、三陰交、陽陵泉、内庭、梁丘、公孫、太衝、陰陵泉、太溪、百会。太りやすい：腎兪、三陰交。産後肥満：曲泉、石門。月経不順：地機、血海。浮腫：水分。脾湿氣滯：内関、水分、天枢、関元、豊隆を平補平瀉、三陰交、列欠を補法。胃湿熱：曲池、支溝、三陰交、内庭、腹結を平補平瀉。任・衝・帶脈の不平衡：支溝、中渚を平補平瀉、関元、帶脈、太溪、血海を補法。脾虚湿阻：中脘、陰陵泉、三陰交、豊隆、水分、太白、公孫を平補平瀉。治療は毎回4~5穴を選び、20~30分置鍼。週に三回行い、15回を1クールとする。他に耳針がある。治療効果は55例中、とても満足(5kg以上減少)は15例、27.3%。満足(2~5kg)は30例、54.5%。無効(0~1kg)減少は10例、18.2%。治療効果があったのは81.8%であった。

5. その他

そのほか、第4~7頸椎棘突起周辺部に施術して全身の症状に対応するホログラム治療や、50cmの高さもあるかという素焼き吸い玉療法など、特殊な治療も多く紹介され、映像がでると驚きの声が上がっていた。また、マレーシアでは中薬による癌治療が多く行われており、研究発表も複数行われた。公的病院では一定の中薬治療を無料で受けられるという。

一方、目的、方法、結果、考察といった基本的な形式をとっておらず、治療方法の概要、著効例の紹介といった自分の治療成果を強調するもので、もっと知りたければ研修を受けてくださいなどと

いう宣伝に等しいものも少なからずあった。

Ⅲ. おわりに

マレーシアでも伝統医学が注目され、法制化が進みつつある。マレーシア保健大臣 (Minister of Health Malaysia) である Liao ZhongLai (廖中業) の開会式のあいさつによれば、マレーシアにはマレーシア医学、インド医学、中国医学が早くから存在し、69.4%の人が伝統医学の治療を受けたことがある。現在では10施設の政府系病院に中医外来がある。1996年に保健省に伝統医学の部門を設け、2001年の政策により中医学はマレーシアのヘルスケア・システムにおける重要な構成要素となった。そして単科大学の批准や専門部局を設置してきただけでなく、中醫師・西醫師の資格を中国などと相互批准している。2012年6月に、新しい伝統部族医薬の法令を国会に提出する予定とのことである。このように、マレーシアでも伝統医学が医療保険システムの中で重要な位置を占めるようになってきているようである。

一方、中国は国家プロジェクトとして鍼灸研究や中医鍼灸の無形文化遺産登録など、伝統医学を武器とするために非常に積極的な活動を行っている。ガイドラインの作成なども西洋医学の医療体系に伝統医学を組み込むための有力な手段であると思われる。

このマレーシア大会は、中国によるWFASの私物化などの問題も目に付いたが、伝統医学を西洋医学と同等に扱われるようにしたいという熱い思いが伝わってきた大会であった。



会場内の様子

Report on the International Department

Report on WFAS International TCM Convention (Global Tour on Acupuncture Styles - Malaysia)

SAITO Munenori

Department of International Affairs, The Japan Society of Acupuncture and Moxibustion
Department of Traditional Acupuncture and Moxibustion, Meiji University of Integrative Medicine

Abstract

The WFAS International TCM Convention (Global Tour on Acupuncture Styles - Malaysia) was held from April 30 to May 2, 2012 at the Pullman Hotel in Kuching, Malaysia. The theme of the convention was "Acupuncture and Moxibustion, Osteopathy, Cancer, Traditional Chinese Medicine, and Chinese Medical Education."

Topics in the field of acupuncture and moxibustion included a summary of Chinese acupuncture research that was conducted during its Eleventh Five-Year Plan (2006-2010), consideration of registering "TCM Acupuncture" in UNESCO's list of Intangible Cultural Heritage, and so on.

The current state of clinical and research activities, legislation, and other topics regarding acupuncture in Malaysia were also introduced. There were more than 400 participants at the convention.

Zen Nihon Shinkyu Gakkai Zasshi (Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion: JJSAM), 2013; 63(1): 63-67.

Key word: The World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies, WFAS, Traditional Chinese Medicine, TCM